

お悔やみの言葉

黒田武志逝去の折、追悼記事等にとりあげられ、また、さまざまなお手紙をいただきました。すべてご紹介することは紙幅の関係でできませんが披露申し上げます。なお、敬称は略させていただきます。

追悼・黒田武志老師

宗教新聞前代表 黛 亨

私が黒田老師とお会いしたのは、十五年ぐらい前のこと。老師は仏教者という前に、人間味のある温かい方だった。その時の老師の肩書は、横浜善光寺住職と横浜善光寺海外留学僧派遣育英会理事長の

二つだけ。その後、対話や講演を通して、他宗教との交流や国際的活躍をなす中で、實力は評価され、さまざま表彰を受けながらも、肩書はいつも二つのままだった。地位と名誉を意図的に避けていたようで、一仏弟子を任じていたからだろう。

養するという住職ではなく、むしろ托鉢しながら説法して衆生の命を救済するというイメージを彷彿させる僧侶であった。私には、今でもそのようなイメージが浮かんでくる。老師と、最初に横浜善光寺で会った時、たった二人で膝を突き合わせていた状態であったにもかかわらず、大音響で叫ぶように、釈尊の価値を私

に説いた。私に説法しているというより大衆説法をしている感じであった。

老師の情熱は、強烈な使命感からくるものだった、と思う。その陰に、父の偉大な薫陶があったことは、「兄弟の中で一番の孝行者」と、兄の黒田俊雄師が認めていることや、毎年、二月の最初の第一土曜日に、父の白純老師の供養を、曹洞宗の中でも最も厳肅な御正當献供楓式で、それも曹洞宗の高位の方々を特別に招いて営んでいたことから、それは分かる。

老師の口癖は「宗祖を通して釈尊に帰れ」だった。老師

が、体でもって真実、仏を理解したのは、駒澤大学大学院を卒業後、永平寺での修行の帰りに、托鉢しながら全国を行脚した時のことだったようだ。飢えと寒さと追い出される屈辱を味わい、感謝も忘れる極限の中で、自己中心の自分から、他者のために生きる回心を体験、その時から、仏に生かされていることを知り、感謝の気持ちに溢れるという宗教の原体験をする。

その後、タイでの上座部仏教の修行、ロサンゼルスでの布教活動を経て、仏への信仰と信念に燃え、日本に帰り、檀家のいない小さなお寺を買

い取って、それを拠点に猛烈な布教を始めた。その猛烈な布教意欲が、私一人に対する説法となったのだと思う。私がかかったころには檀家が二千軒近くになっていた。なかなかできないことである。

老師が、報恩のために立ち上げた事業が、留学僧派遣育英会だった。仏教の有為な人材を発掘し、仏教の発展と世界の平和に貢献するためである。昨年まで、採用者は十六カ国二地域、延べ百十四人に及んでいる。すべて自費で賄った。これもなかなかできないことである。

老師は、昨年十月、米国ハ-

バード大学で大乘仏教の講演をする予定だったが、病の故にかなわなかった。スリランカ、タイなど、アジアの上座部仏教に大乘仏教の価値と和合を訴えてきて、その成果が見え、次の目標にキリスト教が見えてきたところで、昨年暮れ、六十七年の命が燃え尽きてしまった。

今、老師は、肉体の制約を離れ、大好きな釈尊と道元禪師に会い、自由自在にあの世と地上の救いのために働かれています。心よりご冥福をお祈りする。

(平成17年3月20日宗教新聞より転載)

財団法人 仏教伝道教会会長

沼田智秀

肅 啓

本日、黒田武志先生ご遷化の訃報を知り、悲しみに呆然と致しております。

ご家族の皆さまのご心痛いかばかりかと衷心よりお悔やみを申し上げます。先生にはご生前、国内外の道場に物心両面から寄進をなされ、また横浜に善光寺を開山、「釈尊に帰る」という願いのもと、五千軒に上る檀家を教化なされ、大都会に於いて大いに仏法興隆にご尽力なされました。また、国際的にも米国、欧

州諸国、アジア諸国などの仏教者と興隆を密にし横浜善光寺留学僧育英会を結成し、自ら理事長となり二十カ国を超える多くの優れた学僧の育成にも尽くされました。

このような一宗派が行うような伝道に、黒田先生は唯お一人全力で取り組まれた。正に大乘の菩薩であり、私どもの模範とするところでありました。

先生のご恩には万分の一も報い切れませんでした。せめて先生の悲願であった仏法弘通のため先生の分まで精一杯に尽くす所存でございます。つきましては、ご遺族の皆

さま方には、今後とも何卒よろしくご協力を賜りますようお願い申し上げます、お悔やみとさせていただきます。

合掌

財団法人 国際仏教興隆協会理事長

山田一眞

黒田武志先生のご逝去の報に接し、謹んでご哀悼申し上げますとともに、インド日本寺事業へのご支援と、当協会評議員として長きに亘り御指導賜りましたご厚誼に対し衷心よりの感謝を捧げ申し上げます。

合掌

国際マンダラ協会 田中成明

合掌

黒田老師様の御逝去を心よりお悔やみ申し上げます。年とともに光り輝き、さらに大きな仕事を期待されておられました老師様の急逝は、内外の仏教界にとりまして大きな損失となりました。

先には兄の前角老師を失いました。御兄弟で此の末法に佛陀の使命に生き、身命を惜しむことなく努められた先達として二人を尊敬申し上げます。余りにも早すぎる逝去に呆然自失してお

ります。

御老師さまの遺（偉）業を継承し、兄弟仲良く善光寺の興隆の為に精進下さいます様、御願ひ致します。亦奥様におかれましてはお身体を大切にお過ごし下さい。機会を作り焼香に参りたく願っております。

駒澤大学仏教学部教授・
駒澤大学仏教経済研究所長

吉津宜英

謹啓 このたびは中外日報の記事を見まして方丈様の御遷化を知りまして、おどろいた次第です。すぐにもおうか

がいたし、御くやみ申しあげ
るべきでございますが、一
言書中にて心からの御くやみ
申し述べます。

昨年一月に参上させていた
だき、仏教経済研究所のプロ
ジェクトへの御話を聞いてい
ただきました時には、本当に
お元気でございましたのに、
残念なことでございます。何
と申し上げてよいか、言葉も
ございません。どうか、奥様、
これから住職になられます博
志様ともども、方丈様の御遺
業を継承されますこと、心よ
り祈念申し上げます。

ただ、どうか御尊体の御健
勝は第一にと御願ひ申し上げ

ます。

まことにとどのいせんが、
一筆のみ、心よりの御くやみ
を申しあげ、方丈様への感謝
の心を表したいと存じます。

敬具

駒沢大学茶道部幹事長

野口 徹

本日、黒田先輩ご逝去の報
に接し、まことに驚きいつて
おります。ご家族の皆様もご
落胆いかばかりかと拝察し、
謹んでお悔やみ申し上げます。

黒田先輩には、我々駒澤大
学茶道部に長年にわたり、ご

高配をたまわり、深く感謝い
たしております。突然お別れ
することになろうとは、まこ
とに残念でなりません。

皆様方にはお力落としのこ
ととは存じますが、ご心労の
あまり病気などなさいませ
んに、なにとぞ自愛くださ
いますよう、祈念いたします。

故黒田先輩をしのびつつ、
ご生前にたまわりましたご厚
情に深謝し、謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

合掌

黒田武志老師 御遷下せんげ

横浜善光寺留学僧育英会第二回育英生

静岡県・釣学院住職 河内義宣

先師西脇老師の本葬に弔辭を捧たもげてくださった黒田武志老師が昨年十二月二十九日には突然に逝去され、二月十二日、開山忌にあわせて四十九日法要がつとめられました。六十七年の生涯を疾走され偉大な足跡を残されました。生前お会いするたびに燃えるような誓願と体からほとぼしり出るエネルギーに圧倒される思いとともに一生懸命やっていますかと叱咤激励されているよらかな気持ちになったものです。

遺骨の安置された祭壇にはなつかしい遺影とともに遺偈いけ（禅僧が最後に書き残す詩偈）が掲かかげられていて

草鞋満里

海内開縁

大志無尽

成寿巖然

草鞋ぞうわ（わらじ）万里

海内かいだい（世界）に縁を開く

大きな誓願は尽きず

成寿山善光寺の心は巖然

としてある。

とあり、いかにも黒田老師らしい遺偈と拝読させていただ

きました。

老師は両本山やタイ、アメ

リカでの御修行の後、横浜に

新寺を建立、一軒の檀家もな
いとところから始めて三十年の
間に三千軒余の檀家を持つお
寺にしたのみならず、善光寺
留学僧育英会を設立し、宗派
を問わず、志のある人達に便
宜をはかり、二十年の間に二
十数ヶ国に留学僧を送り、ま
た外国から日本仏教を学びた
い人達を迎えいれて、その数
は百余名になる。一寺院とし
てこのようなことをしている
のは例がなく諸外国からも注
目をあつめ、フランス、ドイ
ツ、アメリカ、タイ、スリラ
ンカ等々に講演に歩き、八面
六臂の働きはまことに何人も
なしえないことであります。

最後に、師の誓願に協力をおしまなかつたお檀家の方達に、尋深の敬意を表するとともに、老師の御冥福と善光寺のますますの発展を祈りたいと思います。

(聞法一四七号より抜粋)

松本 芳雄

突然の訃報に接し言葉もございません。

詳しいお話は過日一月十八日光真寺様から伺いました。思い半ばで、さぞや御無念だったことと拝察いたします。必

ず再起すると決意されていた。人の何倍もの人生を駆け抜けられたものと、私も納得するしかないかなと自分に言いきかせています。武志老師様、お名前の通りの生命を懸けた生き方だったのでですね。お見事でした。

光真寺様が仰っていました、「なに、武志は生きています。私の中でも、老師様は生きています。強烈に。山本老師の件でも、私に対しても特段の御配慮をいただきました。ありがとうございます。困難なことと拝察いたしました。すが、いくらかでも武志老師様の御遺志、継続されますよ

うご祈念申し上げます。

失意泰然の光真寺様の心持に、こちらの方が励まされてしまいました。

それにしても、何ともスケールの大きな、立派な生き方をされたものと感銘いたしております。

改めて、心からのお悔やみを申しあげます。

千葉県成東町 岩井文子

御便りを頂戴いたしました。只々驚き、最初は意味がわかりませぬ、何度も読み返し、

現実を知りました。涙が出て
止まりません。

あんなに御元氣な、おやさ
しい、あたたかな方丈様がど
うして、世界平和の為、人の
為にあんなに善根を積んでい
らっしゃったのに……。でも素
晴しい人程、人一倍働かれ力
を尽くし、召されてしまうの
ですね。今は只々、御冥福を
祈るのみです。

くやしいですね。でも方丈
様は天国で見守って下さって
いるのですね。

奥様どうぞお悲しみで御体
を痛められませんかよう、お祈
りしております。

私は一昨年より体調をくず

し、入院したりして御無沙汰
いたしております事、くや
まれます。御葬儀には御伺い
させて頂きたいと存じますが、
お手紙の乱筆で失礼ですが御
悔み申し上げます。

横浜市磯子区 佐伯淳子

な尊いご住職様が先たれた
今、私達は残念で深く悲
しみに暮れています。
在りしご住職様のお姿を偲
び、心からご冥福をお祈り申
上げます。

黒田武志方丈様を偲びて 三首

渡辺豊子

仁徳にみちた、とても心に
残るご住職様でした。生前中、
数多くの尊い道徳心をお導き
受けて参りました。檀家の私

悲しみの底ぬけて降る今日の
雪蠟を灯して香たきまつる

達をどんなに慈愛深く支え接
して下さった事でしよう。心
から感謝申し上げます。そん

善光寺釈迦殿に居並ぶそのな
かに常ににこやかにいまし
方丈様は

亡き夫の戒名に「善光院」を
たまはりき沁々と尊し黒田武
志方丈様

タイ国バンコク ワットパクナム僧院長

H. H. サムデジュフラマハラジャマンガアジャン

黒田武志老師のご遷化に、

深い悲しみを感じています。

お悔やみ申し上げます。

老師がご病気であることは
存じておりましたが、ご回復
は困難だったようです。

遷化に対し私も皆様と同じ思
いのうちにあります。老師は
私がかつて知っていた中で最

も親切な人のうちの一人でし
た。皆様同様ご老師を深くお
慕い申し上げております。

哀悼申し上げます（同じ悲
しみの中で）。

スリランカ・ミヒンタレー

B・サンガラタナテロー

くろだじゅうしよくおくさ
まへ

にほんはさくらがいつぱい
さいているとおもいます。こ
のたびくろだじゅうしよく
さまがなくなられたときいて
たいへんおどろきました。
くろだじゅうしよくさま

にはしようがくきんなどいた
だいたり、いろいろとあたた
かいところでたすけていただ
きました。

わすれないおもいでがたく
さんあります。きょうはおしや
かさまのたんじょうびの四月
八日です。ぶつきょうのこく
さいこうりゅうのためにつく
されたじゅうしよくさまを、
おしやかさまはよろこんでお
むかえくださっているとおも
います。わたしのたんじょう
びも四月八日で五十さいにな
りました。

スリランカのミヒンタレー
の、へいわのいのるこくさい
ぼんじぶーぶんかセンターの、

へいわぶっしやりとうよりご
じゆうしよくさまのめいふく
をおいのりいたします。

たのが、つい最近でございま
すので、お悔やみ申し上げま
すのが、遅くなりまして、失
礼致しました。

横浜善光寺留学僧育英会第十九回育英生
程 正
前略

留学生に対しまして多大な
ご理解とご援助をお示しくだ
さいました老師のご功績に対
しまして、尊敬の念をあらた
にしております。

私は善光寺留学僧育英会第
十九回奨学生の駒澤大学大学
院の程 正で、二〇〇三年度

老師のご恩に報いるために
も、勉強、研究に励みたいと
存じます。

の奨学金を頂きまして、大変
お世話になりました。

本来ならば、直接お焼香に
あがるべきと存じますが、書
簡にての失礼お許し下さい。

この度は、黒田武志老師ご
遷化の報に接しまして、心よ
りお悔やみ申し上げます。

老師の訃報をお聞きしまし

横浜善光寺留学僧育英会第十回育英生
中国社会科学院世界宗教研究所
嘉木揚凱朝
南無本師釋迦牟尼佛

この度、横浜善光寺留学僧
育英会理事長、善光寺住職黒
田武志大和尚が御遷化された
由、深く哀悼の意を表します。
すぐに参上してお焼香をさ

せていただくべきところで
が、なにぶん遠隔の外国（中
国北京）に居りますことゆえ、
それも叶いませぬ、心苦しく
申し訳なく思います。育英会
ならびに善光寺ご寺院の皆様、
壇信徒の皆様方のご悲嘆、い
かばかりとお察し申し上げます。

心からお悔やみ申し上げます。

黒田武志大和尚の尽力で多くの外国人留学僧や研究者は、来日し、また多くの日本人留学僧や研究者が、海外に赴いて国際的な仏教文化交流などを深広にすることができました。黒田武志大和尚の慈悲喜捨のご活躍は、世界平和の向上に大いに貢献をされたものでした。

私も黒田武志大和尚の慈悲喜捨の精神を受け継いで研究生活に精進して行きたいと決意する次第です。

横浜善光寺留学僧育英会第九回育英生

董燕燕（釈満潤）

拝啓

春寒の候、いかがお過ごしでしょうか。

さて、私は台湾佛光山からまいりました董燕燕です。前日黒田先生の四十九日忌に参列させていただきました。当日ご来賓方々が大勢出席なさり、なかなか挨拶することができなくてほんとうに申し訳ございませんでした。ただひたすら先生のご冥福を祈っております。

黒田先生がこの世を去ったのは早すぎです。ショックで

した。まだ恩返しすることができないのに。あの時、東大での留学について、いっばいの不安があつて育英生に選ばれたことは非常に嬉しくて「これから日本では頼りにできる先生がいらっしゃるな」と密かに喜んでおりました。残念ながら一年後自分の健康のため帰国しましたが、ずっと先生のことは忘れてはいませんでした。

一九九九年、本山に東京へ派遣され、その後何度も先生と逢いいろいろお世話になりました。もっともっと先生のご指導をいただきたいですけれど慣例毎年の育英会の集まり

合掌

は「まあ今回用事があって、じゃ次回行きましようか」と思っておりました。いま思うと痛恨の極みです。

まだまだ未熟な私ですが、これからも育英生としての誇りをもって世界仏教交流のため、頑張っていきたいと思っています。かえすがえすも残念で言葉ありません。御家族御自愛なさってお過ごしただければ幸いです。

明治大学文学部 山口泰司

拜啓

四月も半ばを迎え春もいよいよたけなわの頃となりまして、貴育英会におかれましては、国際社会の中でますます重要性を増しつつあるお仕事に、ねばり強く取り組んで居られますことに、深く敬意を覚え続けて参りました。

さて、私はこの四月一日に一年間のインド留学を終えて、無事に帰国し、留守中の郵便物などを整理して居りましたところ、黒田武志御老師の御遷化の文字を目にし、余りの

驚きに言葉を失っています。

生前は娘共々大変お世話になるばかりで何の御恩返しもできずに来たことが、つくづく残念に思われます。

早速に出向いてお参りさせていただくべきところですが、新学期早々の忙しい日々なのか、それも叶いません。

御老師のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

敬具

見性院 橋本恵子

先代様には、主人が大変お

世話になりました。おかげ様で、アメリカで勉強に励む事ができ、人間的にもだいぶ成長した事でしょう。アメリカ留学を経験していなかったら、今の主人はなかったはず。私とも縁がなかったと思います。

そう考えると、私にとって先代様は大変感謝すべきお方であります。生前に是非お会いしたかったと思います。

また、新命住職様のこれからの活躍をお祈り申し上げます。季節の変わり目でもありますので、御身お大切になさいますように。

December 30, 2004

To the Kuroda family,

Please accept my heartfelt condolences on the passing of Roshi Takeshi Kuroda. His beautiful work will never be forgotten. May he be blessed on his new journey.

May those of you who remain also be blessed in this new phase of your lives.

In gassho

一心

Isshin Havens (Brazil)

Zen Center of Los Angeles